

第4学年 社会科学習指導案

日 時 平成22年10月1日(金)5校時
児 童 男3名 女2名 計5名
指導者 三好浩史

1 単元名 『ごみはどこへ』

2 単元の目標

- 自分たちの生活から出るごみに関心をもち、ごみの分別や処理の仕方について意欲的に調べようとするとともに、ごみを減らすために自分たちができることを、進んで考えようとする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 見学や調査を通して、健康な暮らしを維持するためにごみの処理が果たす役割や意味について考えるとともに、ごみを減らすために、自分たちにできることはどのようなことがあるかを考える。
(社会的な思考・判断)
- 具体的な調査・観察を通してごみの処理の仕方について調べ、ごみのゆくえや仕事に携わる人々の工夫や努力などを分かりやすく表現したり、ごみの減量のために自分なりに考えた方法を工夫して知らせたりする。
(観察・資料活用の技能・表現)
- ごみの処理は組織的・計画的に行われていることや仕事に携わる人々の工夫や努力などによって自分たちの健康な生活が維持されていることを理解する。(社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

(1) 児童について

校内における、ごみの分別は「燃えるごみ」「燃えないごみ」「資源ごみ」である。学校内なので出るごみの種類はある程度限定されてはいるが分別は行っている。児童は、学校や家庭において、このようにごみを分別して出していることやコンビニエンスストア・スーパーマーケット等でも分別回収していることは知っている。しかし、残念ながら児童の分別に対する意識が高いとは言えない。

捨てた後のごみの行方については、地域のごみステーションに出すことは知っていても、そのシステムや回収後のごみの行方について知っている児童はほとんどいないと考えられる。

そこで本単元では、自分の生活とかがわりが深いにもかかわらず、普段何気なく見過ごしてきたごみ処理について学習する。このことにより、自分たちの生活は様々な社会の営みの上に維持されていること、その営みは多くの人々が計画的・協力的に行っていることなどの社会認識を育て、ごみ処理を通じて、社会生活の意味や意義を自分の生活とのかかわりで考えられるようにしていきたい。

(2) 教材について

本単元は、学習指導要領第3学年および第4学年の目標(1)「地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。」を受けて設定されたものである。

ここでは、児童が生活している地域において、市や地域の人々が、増加するごみを処理する方法を考えたり、ごみを減らすための工夫をしたりと様々な努力をしていることについて理解させるとともに、健康を守る活動を通して人々が深く結びついていることに気付くことができるようにすることをねらいとしている。

廃棄物の問題は年々深刻さを増している。そんな中で学校では、ごみ処理やごみ減量化運動などについて知るだけでなく、児童一人一人がごみ問題を身近な問題としてとらえ、ごみを減らすために自分たちにできることを考え、協力して生活をしていこうとする態度を育てていくためにふさわしい教材であると考ええる。

(3) 指導について

指導の手順としては、まず、自分たちの生活とのかかわりをとらえるために学校や家庭のご

みの調査や分別、また、収集の窓口となるごみステーションの調査などを行い、普段何気なく捨てていたごみについて考え直す。そこから、それらのごみをどこでどのように処理しているのかを具体的に調べ、生活環境を維持するためにごみの処理が果たす役割や意味を考えられるようにする。

また、増え続けるごみへの対策として、ごみの処理の仕方や従事している人々の工夫や努力に目を向けるとともに、ごみを資源として活用する工夫などを取り上げ、これらが計画的・組織的に行われていることを考えられるようにしたい。そして、地域住民の一人としてごみ処理の問題に自分なりの考えをもってかかわっていかうとする意識を高めていきたい。

このような学習を通じて、身の回りの生活環境に関心を持ち、自分たちの生活と深く結び付いている社会の営みを調べることで、その社会的な意味を考え、問題点を見出し、積極的に地域社会にかかわっていかうとする態度の育成を目指していく。そのために、計画を立てて実際に具体的に観察・調査する活動を重視し、調べたことを工夫して表現し、それに伴う各種の資料の収集・活用ができるような学習展開を考えていきたい。

(4) キャリア教育との関わりについて

キャリア教育にかかわる4学年のテーマは、『身近な人(家族・友だち・地域の人)から学ぼう』である。

本単元では、キャリア発達に関わる能力のうち主に次の能力を育成できると考える。

【コミュニケーション能力】

○ごみ処理やごみ減量のための工夫について、見たこと、聞いたこと、資料等をもとに、自分なりの根拠をもって話したり聞いたりすることができる。

【情報収集・探索能力】

○ごみについて、身近な家庭から考えはじめ、ごみの処理に関わって様々な人々が働いていることやその活動を調べる。

【役割把握・認識能力】

○ごみの処理や資源ごみの再利用など、一連の活動が組織的・計画的に行われていることに気付く。

【課題解決能力】

○ごみの減量化に向けて自分たちができることを考え、進んで関わっていかうとする。

4 単元の構想

◎は重点

過程	時間	主な学習活動と内容	キャリア教育との関わり									
			かかわり、 つたえる		しらべ、 きづく		ゆめやきぼ うをもつ		かんがえ、 きめる			
			自他	コミ	情報	職業	役割	計画	選択	課題		
第1次	1	○学校のごみ調べを通してごみの廃棄について関心をもつ。 ・学校内のごみを調べ気付いたことを話し合う。			○							○
	2	○家庭のごみの廃棄の仕方をインタビューし、ごみの量の多さと分別のしかたについて知る。 ・家庭のごみ処理について話し合い、インタビューの計画を立てる。		○					○			
	3	・家庭のごみの量の多さや分別について知り、ごみの処理についての学習課題をもつ。		○	○							○
第2次		○ごみステーションを見学し、ごみの収集の様子を知るとともに、集めたごみの行方に関心をもつ。										

(本時)	4	・出したごみがどのように集められるか話し合い、見学の計画を立てる。		○				○		
	5	・ごみステーションを見学し、ごみ収集車や清掃業者の仕事の様子を調べる。		◎		○				
	6	・ごみ収集が組織的、計画的に行われていることに気付くとともに、その後のごみの行方について新たな課題をもつ。	○					◎		○
	7	○胆江地区衛生センターを見学し、ごみ処理の経路を知るとともに、衛生センターの役割やごみ処理の仕方を調べる。 ・衛生センターの見学計画を立てる。		○					○	○
	8	・衛生センターを見学し、ごみの処理の仕方を調べる。		○	◎					
	9									
	10	・ごみの処理に携わっている人々の努力や工夫に気付く。		◎				○		
	11	○ごみ問題について話し合い、ごみの減量のために自分なりにできることを考える。 ・衛生センターの人の話や資料からいろいろなごみの処理の仕方を調べ、ごみの減量の必要性を知る。								○
	12	・増えるごみと処理の問題に対して、地域やスーパーマーケット等で取り組んでいることを知るとともに、学校や家庭で自分たちができることを考える。	○						○	◎
	13	・ごみの行方や処理の仕方、減量のための手だてについて新聞やチラシにまとめる。		◎	○					○

5 本時の指導

(1) 目標

胆江地区衛生センターでの、ごみの処理の仕方が分かるとともに、ごみ処理に携わっている人々の努力や工夫に気付く。

(2) 評価規準

評価規準	具体的評価規準		手立て
	十分満足できる	概ね満足できる	
◆衛生センターの人が、増加するごみを減らすために、様々な努力や工夫をしていることに気付く。 【社会的な思考・判断】 (発言・ノート)	衛生センターでは様々な施設で計画的にごみが処理されていることが分かるとともに、ごみ処理に関わる人々の努力や工夫に気付く。	衛生センターでのごみ処理の仕方が分かるとともに、たくさんのごみを処理するための施設・設備があることに気付く。	たくさんのごみを処理していることに気付かせるとともに、見学の視点に沿って考える活動を通して、努力や工夫に結びつける。

(3) キャリア教育の視点

- ◇衛生センターで見学した事をもとに、施設・設備や働き方の工夫について根拠をはっきりさせながら話したり聞いたりすることができる。【コミュニケーション能力】
- ◇自分たちが日ごろ気付かないところでも、私たちの生活を支えるために多くの人が様々な形で働いていることに気付く。【役割把握】

(4) 展開 (10 / 13時)

段階	学習内容と活動	指導上の留意点	備考・評価 (◆教科◇キャリア)
つかむ 5分	<p>1 学習の流れを想起する。 ○自分たちの家庭から出たごみのゆくえを想起する。 ○ごみの量の多さについて ・ごみ集積所のごみの量の多さ ・家庭から1年間にでるごみの量</p> <p>2 課題を確認する。 えい生センターでは、たくさんのごみをしょ理するためにどんな工夫をしているのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家→集積所→衛生センターの流れについて確認する。 ・本時は、燃えるごみの処理についてまとめることを確認する。 	衛生センターの写真
ふかめる 27分	<p>3 調べてきた視点を確認する。 ・ごみのしょ理の仕方 ・施設について ・働いている人について</p> <p>4 調べてきたことをもとに、自分の考えを書く。 ○ごみ処理の流れを想起する。 ○たくさんのごみを処理するための工夫を見つける。</p> <p>5 工夫について話し合う。 ○自分が考えた工夫 ・大きなクレーン ・大きなピット ・たくさんプラットホーム ・24時間 ・焼却炉の温度 ・施設の改修</p> <p>○ごみ処理に関わる工夫や努力をさらに考える。(班→全体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調べてきた観点を項目として確認する。 ・焼却施設のしくみ(順序)については図や写真を提示する。 ・できるだけ聞いてきた話を具体的に想起させる。 ・センターの変遷を提示する。 ・「もし、分別していなかったら？」で、分別がごみ処理をする上でも大切であることに気付かせる。 	<p>見学カード 焼却施設の図 写真</p> <p>◇何のための工夫なのか、働く人の動きや話、施設と結び付けて考えることができる。 【コミュニケーション能力】 (発言・ノート)</p>
まとめる	6 まとめる。	・視点ごとに調べた事を短い言葉でまとめる。	◆【社会的な思考・判断】 (発言・ノート)

<p>13分</p>	<p>えい生センターでは、たくさんのごみをしょ理するために、集め方・しせつ・働き方など様々な工夫をしている。</p> <p>○「たくさん」以外の工夫について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいなガス ・においを防ぐ、虫を防ぐ ・きたない水は中で使う ・お湯を使う（プール、お風呂） <p>○ごみの処理にかかわっている多くの働く人の存在と思い気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃えるごみの流れと、収集に携わる人の話を想起する。 <p>7 振り返る。</p> <p>8 次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・働いている人の話を想起させ、工夫の裏には願いがあること、また、一方では苦労もあることに気付かせる。 ・「もし、収集の人や衛生センターの人がいなかったら？」を考えさせる。 *ごみの処理がたくさんの人が関わって、計画的に行われていることにも気付かせたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時を振り返り、感想を中心に分かったことや新たな疑問などを発表する。 ・増え続けるごみの問題と燃えるごみ以外のごみの行方と処理について「どうするのか？」という新たな問いをもたせたい。 	<p>写真</p> <p>◇私たちの生活が多くの人に支えられていることに気付く。【役割把握】(発言)</p>
------------	---	--	--

(5) 板書計画



